

平成30年10月26日(金) 1校時 下体育館 指導者 T1中藤 貴一 T2武井 良平

児童支援者 菊地 佳子

1 単元名 もっと！もっと！マット！！(器械運動：マット運動)

2 単元の目標

マット運動の行い方を知り、進んで課題に取り組む中で、解決のための活動を工夫するとともに、基本的な技を身に付けることができる。

3 単元の構想

【児童の実態】

本学級の児童、男子18名、女子15名、計33名は、体を動かすことが好きで、課題に対して一生懸命に取り組むことができる児童が多い。しかし、できないとすぐに諦めてしまう児童もいる。1年生でのマットを使った運動遊びでは、絵カードに描かれているものや生き物になりきって、手で体を支えて移動したり、様々な方向へ転がったりする経験をしている。事前のアンケートでは、マット運動が好きだと答えた児童がほとんどである。3年生の水泳運動では、グループ活動を経験してきている。泳ぎを見せ合ったりまねっこをし合ったりして学び合う姿が見られた。しかし、自分が活動したいという思いが強いため、友達とかかわりをもつことができにくい児童もいる。個別の運動に没頭しやすいので、グループの学び合いの場を多く設けることで、少しの変化に気づき、友達と学ぶよさを感じることができるようになりたい。

【運動のおもしろさの捉え方】

マット運動は、マットの上で回転したり、バランスをとったりしても、立つことができるかどうかに挑戦することがおもしろさであると捉える。本単元では、マットの端から端まで落ちないで、いろいろな技をしても立つことができるかどうかに挑戦することで運動のおもしろさを味わわせたい。

「課題に迫るために、めあてをもち、夢中になって学び続ける子どもの育成」を目指して

挑戦課題：〇〇して立つことができるかどうか

【問いと学びの姿】

問い 回って立つにはどうすればいいかな？

→ 回って立つための体の使い方を工夫している姿。

問い ()があっても、回って立つにはどうすればいいかな？

→ 場や行い方に合った体の使い方を工夫している姿。

問い マットの端まで行くために、学習した技をどう使えばいいかな？

→ 長いマットの端まで行くために、学習した技の中から、どの技をどの順番でするかを工夫している姿。

【単元構成の工夫】

単元の前半では、「回って立つにはどうすればいいかな」という問いに取り組み、一人一人の児童が基本的な技を身に付けることができるようにする。

単元の中盤では、「()があっても、回って立つにはどうすればいいかな？」という問いに取り組む。マットにあるものに条件をつけることにより、児童が自然と発展技に取り組むことができるようにする。

単元の後半では、マットの枚数を増やしたり、並べ方を変えたりすることで、学習した技を組み合わせてたり、繰り返したりすることに意欲的に取り組むことができるようにする。

4 運動のおもしろさを広げるための支援の工夫

- 「仲間」とのかかわりから
 - ・ 自分で試してみたことを互いに見せ合ったり、それを真似したりする場を設けることで、より多様な技や取り組みのよさに気付くことができるようにする。
 - ・ 友達と一緒に回転したり、場の条件を変えたりすることで、ペアやグループでの活動に必要感を感じ、楽しんで活動に取り組むことができるようにする。
- 「もの」とのかかわりから
 - ・ マットにものを置き、条件を設定することで、児童から基本の技をもとにして体の使い方を工夫することができるようにする。
 - ・ マットを半放射状に配置して、友達の動きを見やすくすることで、多様な技や取り組みに気付くことができるようにする。
- 「自己」とのかかわりから
 - ・ 多様な技の図や技のポイントをまとめたものを掲示したり、学習の記録をファイリングし適宜振り返ったりすることで、どの児童もめあてをもつことができるようにする。
 - ・ 傾斜をつけたマットで転がる感覚をつかませるなど、易しい場で運動のおもしろさやコツを体感できるようにする。

※ 本授業はティームティーチングで行う。T 1は主に授業を進め、めあてに沿って活動に取り組めるように支援する。T 2は主に、技能的につまずきを感じている児童の支援を行う。

5 評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	マット運動の行い方を知り、基本的な技を身に付けることができる。	自己の能力に適しためあてを見付け、課題解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	運動に進んで取り組み、きまりを守ったり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けようとしている。
評価規準	ア 自分に合った行い方を知り、いろいろな技を試すことができる。 イ 回転系や巧技系の基本的な技を身に付けたり、発展技に取り組んだりすることができる。 ウ 技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。	カ めあてを見付け、その解決のために活動の場を選んだり、友達の真似をしたりしている。 キ 分かったことや考えたことを友達に伝えたり、振り返りに書いたりしている。	サ きまりを守ったり、試技の前に安全を確かめたりしながら、マット運動に進んで取り組もうとしている。 シ 友達と仲よく動きを見合ったり、互いの考えを認め合ったりしようとしている。